

平成30年度

総務文教常任委員会 行政調査報告

期 日：平成30年10月3日(水)～4日(木)

調 査 地：(1) 青森県鱒ヶ沢町
(2) 青森県弘前市

調査内容：

- (1) 母子支援センター（子育て世代包括支援センター事業
について
- (2) 歴史ガイド育成事業について

国見町議会

ページ

松 浦 常 雄 委員長	・ ・ ・ ・ ・	2
東 海 林 一 樹 委員	・ ・ ・ ・ ・	4
八 島 博 正 委員	・ ・ ・ ・ ・	5
浅 野 富 男 委員	・ ・ ・ ・ ・	6
佐 藤 定 男 委員	・ ・ ・ ・ ・	7
松 浦 和 子 委員	・ ・ ・ ・ ・	8

平成30年度総務文教常任委員会行政調査報告書

平成30年10月9日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦常雄

【調査内容】

1. 鯨ヶ沢町母子支援センター事業の取り組みについて

- ①鯨ヶ沢町では、15年前に町立中央病院に産科がなくなり、町から40分かけて産科医療機関へ行くことが必要になった。そこで町内に、妊産婦の支援ができる機関が必要であると考え、平成21年に役場庁舎内に助産師を中心に「母子支援センター」を立ち上げた。
- ②「母子支援センター」は、役場1階にあり、健康ほけん課と廊下を挟んで向かいにあるので、保健師と連携して妊娠から出産、育児まできめ細かな支援ができる仕組みができた。
- ③「母子支援センター」の事業は、妊娠から出産、育児まで助産師とそれを補助するスタッフ、及び、保健師と協力し、妊産婦へ積極的に関わり、不安の解消や、紙おむつ支給などの経済的支援、出産後訪問による新生児及び母親の健康状態の把握や母親の悩みを聞き、産後うつ予防、軽減などに努めている。こうした実績から、国の「子育て世代包括支援センター」のモデル地区として指定を受け事業を進めてきた。

2. 弘前市歴史ガイド育成事業について

- ①昨年、弘前市において歴史ガイド育成についての大きな研修会が行われ、ガイド育成の先進地である弘前市の取り組みを調査した。弘前市では、ガイドの希望者を募り、1年間研修を受けさせ、2年目から実際にガイドをさせる方針である。弘前城のガイドの方は、元銀行員で以前から歴史に興味があり、退職後に研修を受け、ガイド歴は5年で、弘前の歴史に大変詳しく説明も上手であった。
- ②弘前城の天守閣の石垣は、水はけのよくない構造及び地震の影響により石垣が外に突き出て崩落の危険が高まったため、一時天守閣をすぐ近くに移動し、石垣を積み直す前の排水工事が行われていた。
- ③大手門他、400年前の築城当時の門や櫓がいくつか残っており、歴史の重みを感じた。また、城の規模の大きさに驚いた。外堀や内堀がきちんと残っており、水が湛えられていた。堀沿いや城内に2,600本の桜の樹木があり、弘前城の桜の花は全国的に有名である。
- ④午後は、明治時代に建てられたいくつかの洋風建造物を見学した。明治の洋風建造物は、日本の大工が木で洋風に建築したもので、擬洋風と言われるそうである。これらの価値ある建造物が、市役所とお城の近くに集めて移築されていることは、

見学するのに大変便利である。中には、内部を民間に開放し喫茶店などの営業に使われていた。このような使い方も参考になると思った。

【調査の結果】

- ①町立病院から産科がなくなったことを切実な問題と捉え、国の政策に先立ち、妊産婦の立場に立っていち早く母子支援に取り組んだことは素晴らしいと思う。これから国見町でも「子育て世代包括支援センター」を立ち上げる上で大変参考になる研修であった。
- ②弘前市は、歴史ガイドの育成について、1年間の研修期間を経て2年目から正式にガイドとして活動できるようにしている。どのような研修内容なのか我が町でも学ぶことがあるのではないかと思った。

以 上

平成30年度総務文教常任委員会行政調査報告書

平成30年10月8日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 浅野富男

【調査内容】

1. 鯨ヶ沢町母子支援センター事業の取り組みについて

鯨ヶ沢町の先進的な母子支援センターの事業は、平成15年町立病院(現在はつがる西北5広域連合鯨ヶ沢病院)から産科がなくなる時点から始まった。産科がなくなるという事は出産するためには、最短でも40分ほどかかる五所川原市まで行くことになる。そのために講じた措置が当時病院に勤務していた助産師を町に配置することから始めた。そして課内に少子対策班を設置した。出産施設がなくなったことから妊産婦が抱える様々な不安や負担の軽減を図ること、産科医療機関との連携、受け皿の体制を構築すること、そして安心して産み育てられる環境を作ることが大きな課題として位置づけられた。この課題に取り組むため、1、産前産後のケア事業、2、ママサポート事業、3、その他の事業の三つを柱として取り組むことになった。特に注目すべきは産前産後のケア事業として助産師による訪問支援を行っていることである。また有料となる家事援助でのママサポート、その他の事業でベビー用品リユースも行っている。総じてこのようなことはその地域性もあることと思うが、容易なことではない。これは町の姿勢によるものと評価するところである。そして助産師を配置することこそが要と思われる。費用については当初は自己財源であったが現在では補助事業となっている。

2. 弘前市歴史ガイド育成事業について

二日目の弘前城本丸石垣修理事業は100年ぶりの大修理と名付けられ平成26年から35年までの10年間の期間を見込んでの石垣の解体修理事業である。弘前城の石垣は明治時代中ごろにも崩落がおこり天守を曳屋した後、大正4年に修復を終えて現在の形状となった。視察時点では石垣の掘り起こしが最終段階にあるように見えた。石垣は昭和58年の日本海中部地震から定点観測を行い、その調査報告などから石垣のふくらみが確認され崩壊の危険が迫っていると判断し、工事に着手したとのことである。またこのために天守閣の移動が必要になることから約70mの曳屋を行い現在は本丸の内側に置かれている。天守閣も石垣修理の様子も随時見学できる。

【感想】

役場の中に保健師を配置することは珍しくないと思うが助産師を置くという稀有な政策は素晴らしいことと思う。なお鯨ヶ沢町での町内移動に車両を準備されたことに感謝したい。弘前城の石垣修理は土木工事ではあるが一見に値するものである。

以上

平成30年度総務文教常任委員会行政調査報告書

平成30年10月11日

国見町議会議長 東海林 一樹

【調査内容】

1. 鱒ヶ沢町母子支援センター事業の取り組みについて

説明には、鱒ヶ沢町の福祉衛生課長以下副参事、班長、母子支援専門員の4人が出席し説明と質疑応答に応じていただいた。

鱒ヶ沢町では、平成15年に町立中央病院から産科が廃止された。このことに危機感を抱いた当時の町長が、翌年保健福祉課内に「少子対策班」を設置し、中央病院に勤務していた助産師を異動させ、妊婦健診無料券の配布やおむつ支給など町独自のサービスをスタートさせ、これが母子支援センター設立のきっかけとなった。その後、平成21年5月に鱒ヶ沢母子支援センターを設立し、現在は児童福祉部門を担当する福祉衛生課に所属している。

職員は助産師が1名、事務員が2名、嘱託助産師が1名である。利用者からお礼の言葉をいただくと本当にやりがいを感じる、何といてもこの業務をどこかに委託しているのなら中途半端なこともあるかも知れないが、町独自で職員を抱えてやっているのだから無責任なことはできない、それだけにやりがいがあると思うと、担当職員は話していた。

国見町でも鱒ヶ沢町を参考にすべき点は多くあると思った。

以上

平成30年度総務文教常任委員会行政調査報告書

平成30年10月13日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

【調査内容】

1. 鯨ヶ沢町母子支援センター事業の取り組みについて

役場会議室において、今福祉衛生課長の挨拶後、古館班長より、母子支援センターの事業内容について説明を受けた。

課内には保健師と助産師が常勤し、妊婦の健康推進、助産師による妊産婦の支援、子どもの保育事業を3本柱にして事業を進めており、先進的事例として大いに参考になった。

会議には新岡助産師も同席し、国見町からは大内専門保健師も同席した。

2. 弘前市歴史ガイド育成事業について

弘前城本丸の石垣修理事業の現地視察とともに、本丸の移設現場、弘前城周辺に移築が進む歴史的建造物の現況を視察した。

また、その周辺の電柱の地下移設の現況は、他の市町より一歩進んでいるものと感じた。

以上

平成30年度総務文教常任委員会行政調査報告書

平成30年10月11日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

【調査内容】

1. 鯨ヶ沢町母子支援センター事業の取り組みについて

(1) 背景と経緯

- 平成15年、鯨ヶ沢町立中央病院の産科がなくなった。五所川原市までは車で40分かかる。このことに危機感を抱いた当時の町長が保健福祉課内に「少子対策班」を設置し、町独自のサービスをスタートさせた。

(2) 事業内容（3つの柱）

○産前産後ケア事業（助産師による訪問支援）

- ・妊娠初期から子育て期にわたり、助産師による訪問をメインにした専門的ケアや相談支援を行う。また保健師との情報共有・アセスメントにより問題点の共通認識を持つ。

○ママサポート事業

- ・ママたちからの要請により母子支援ヘルパーを派遣し、子どもの一時預かりや病後児保育、妊産婦の家事援助などを行う。（有料）

○その他の事業

- ・乳児紙おむつ支給（20パック）や、家庭で不要となり寄贈いただいたチャイルドシートなどのベビー用品を無料で貸し出している。

2. 弘前城と周辺の歴史・文化遺産について

- 弘前城天守閣は石垣修理のため移動中、日本の技術の高さは凄い。

城内は整然と整備され市民の憩いの場、観光拠点の役割を果たしている。

- 青森銀行旧本店など歴史・文化遺産が市の一角に整備・保存されている。

【感想・意見】

- 母子支援センターの特徴は何といても助産師による訪問支援である。

妊娠期からの専門家による手厚い支援は家族の大きな安心であろう。

- 弘前城をはじめ歴史・文化遺産に対する行政の熱い思いを感じた。

以上

平成30年度総務文教常任委員会行政調査報告書

平成30年10月11日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦和子

【調査内容】

1. 鯨ヶ沢町母子支援センター事業の取り組みについて

面積343.08平方キロメートル、人口（8月31日現在）10,097人の鯨ヶ沢町における「子育て世代包括支援センター」の取り組みについて視察研修を実施した。平成15年に鯨ヶ沢町立病院の産科がなくなり、当時の鯨ヶ沢町長が、町立病院の助産師を町職員として受け入れ、平成16年に保健福祉課内に「少子対策班」を設置（班長に助産師1名、保健師1名、一般事務員1名）。おむつの支給や妊婦検診の無料券配布をスタートした。また、平成19年度から乳児家庭全戸訪問を実施し、平成21年5月に鯨ヶ沢町母子支援センターを設立した。今年度は班長（一般事務員）1名・助産師2名・臨時事務職員1名の体制で業務に当たっている。事業内容は下記の「3つの柱」を軸に、痒いところに手が届く支援を実施している。

1. 産前産後ケア事業 助産師による訪問支援
2. ママサポート事業 一時預かり保育、病後時保育、家事援助
3. その他の事業 乳児紙おむつ支給、ベビー用品リユース、性教育教室

2. 弘前市歴史ガイド育成事業について

- ・ 弘前城本丸石垣修理事業（平成25年着手）
- ・ 天守を本丸の内側に約70m曳屋（平成27年実施）

以上の2点を中心に、弘前市観光ボランティアガイドの方の説明を受けながら工事状況等を視察した。平成28年に石垣解体工事に着手、石材に番号付け等の作業を行った。石垣修理工事には、約10年間、天守を元の位置に戻すまでにも5年以上かかるとの説明。予定では、平成31年から石垣の積み直し工事、平成33年に天守の曳戻しが予定されている。

【感想】

鯨ヶ沢町の「子育て世代包括支援センター」の取り組みについての行政視察は、9月議会に子育て支援について一般質問で取りあげており、強い関心を持って説明を聞いた。内容は上記のとおりであるが、母子支援センターの班長は資格のない一般事務員が有資格者の助産師のリーダーとなり、牽引していることに驚いたが、自信と誇りを持ち、助産師との連携も良く、仕事に従事している表情は爽やかであった。また、弘

前城での年間 500 万人の観光客が国内外から訪れる観光地のボランティアガイドは、郷土への誇りと郷土愛が素晴らしく、市のボランティアガイドは全くの無報酬であることに驚いた。充実した行政視察であった。

以 上